



ゆりぐみだより

2017年 5月 第1号

そよそよと吹く暖かい風と一緒に、園庭の花や木々たちも楽しそうに揺れて、すてきな音楽が聞こえてくるような心地良い季節になりました。

憧れていたゆりぐみになり、今まで以上に何事にも張り切っている子ども達。そんな姿を大切にしていきながら、園生活最後の1年を楽しく過ごしていきたいです。

楽しかった園外保育

みんなが楽しみにしていたパノラマ公園。バスの中でも楽しそうにお話しをしながら外を眺めていると、「お城が見える！」と男の子が言い出しました。本当は五重塔なのですが、子ども達の話はそこから盛り上がり「お姫様と王子様が住んでいるのかな」「覗いてみたいね」となんともメルヘンな会話に微笑ましく思いました。

いざ、パノラマ公園に着くとたくさんの桜の木を見て「きれいだね」「花びら拾ってプレゼントしよう」と大喜び。また、ローラ一滑り台では、滑り終わると「お尻がビリビリする～」と言いながらも、必死に坂を駆け上がり何度も楽しんでいました。思い切り遊んだ後は、噴水を見に行きました。「3・2・1」とカウントすると迫力ある噴水に感動する子もいれば、ちょっぴり怖がる子もいましたが色々な形に変化していく姿に喜んでいました。

園に帰ってからも思い出話で盛り上がり、早くも次の園外保育を楽しみにしているようです。

頑張ってます！

進級して1か月が経ち、運動会に向けて少しずつ練習を始めています。保育士が倉庫から必要な物を出していると、「今日は何やるの?」「準備手伝ってあげる」と言い、とても頼もしいです。跳び箱や鉄棒の練習では、「5段跳べたよ」「連続逆上がり、お父さんやお母さんに見せたい」と気合い十分ですが、時々「できない..」と弱音を吐くこともあります。そんなとき、子ども達同士で「ゆりぐみだからできるよ」「あと少し」と励まし合っている姿が見られます。その言葉をかけられると、表情が変わり、もう1度チャレンジし「できた」と大喜び。「ゆりぐみだから！」は子ども達にとって魔法の言葉のようですね。

自分の目標に向かって、できたときの嬉しい気持ちを大切に、自信をもって取り組んでほしいです。

優しい気持ち...

5歳児になると、「なぐさめてあげたい」「〇〇くん（ちゃん）に教えよう」等、仲間の中での自分を意識し、自分に対する自信や仲間を思いやる気持ちが育ってきます。子どもによってどう行動するかはそれぞれですが、子ども達の考えを尊重し、「こんな言葉をかけられると嬉しいかもしれないね」等、具体的な方法を伝えてあげることも大切なことです。どうしたらよいのか、自分で考えることができるような声かけをし、思いやりをもって生活できるようにしていきたいと思います。

♪おねがい♪

クラスで、生活発表の場を設けています。お忙しいとは思いますが、ご家庭でも園での様子をお子さんに聞くなど、コミュニケーションをとっていただくようお願い致します。